

インタビュー

# 柔軟な発想と早期弾込めで 世界最高水準の暗号技術など 競争力ある技術を伸ばす

安心・安全な社会実現に貢献するためのセキュリティ技術に関する研究開発を進める、NTTセキュアプラットフォーム研究所。同研究所では、暗号技術などの基礎理論・方式の研究に加え、各種のセキュリティ機能や、高度な分析技術に基づくセキュリティ運用支援機能の開発、セキュリティ情報やノウハウの共有などの幅広い活動を行っている。2013年7月に着任した梅本所長に、同研究所のR&D方針と最近の取組みについてうかがった。



NTTセキュアプラットフォーム研究所  
所長 梅本 佳宏氏

## R&Dの方向性を再整理 新ビジネス創出の環境を作る

—昨年10月、本誌でNTTセキュアプラットフォーム研究所の取組みについてご紹介しました。それから現在までの変化についてお聞かせください。

**梅本** R&Dの方向性、目的に「情報の保護と活用による新ビジネス創出」というテーマを新たに掲げました。当研究所で開発するセキュリティ技術は、「社内情報システム」「公

衆／インフラ」「法人／ソリューション」の3つを主な保護対象として想定しています（図1）。それらの対象に対して、セキュリティ技術によって何を実現するかということのを再整理したのです。浮かび上がったのが、冒頭のテーマでした。

近年、ビッグデータの利活用が進んでいます。ビッグデータは情報の宝庫で、新ビジネス創出の「種」を多数内包しているからです。しかし一方で、ビッグデータに含まれる個人情報

の保護が不十分で、個人情報の漏洩が社会問題化しています。ビッグデータ分析によって新ビジネスを創出するには、データの匿名化をはじめとした個人情報保護のための環境整備が欠かせないと考えています。

## 東日本大震災の教訓をもとに 新たなR&D領域を設定

—主なR&D領域はどのようなものでしょうか。

**梅本** 「情報セキュリティ基盤」「運用支援」「モニタリング基盤／インテリジェンス」「リジリエント・セキュリティ」の4つの領域で研究開発を進めています（図2）。

情報セキュリティ基盤の領域では、当研究所の強みである世界トップレベルの暗号技術などを活かして、情報の保護と活用の仕組みを作ることを目的に研究開発を進めています。

運用支援領域では、当研究所が運営する「NTT-CERT」というセキュリティ運用支援組織が中核となっています。NTT-CERTを通じて、NTTグループのセキュリティインシデン

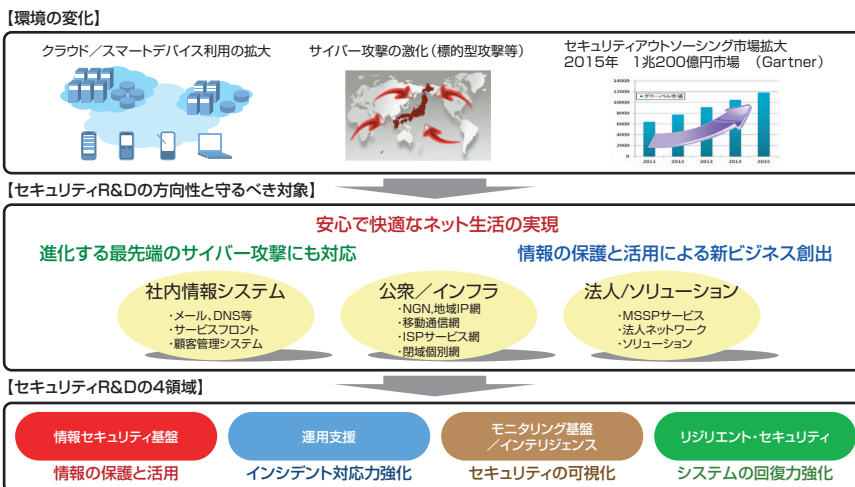


図1 セキュアプラットフォーム研究所のセキュリティR&D基本方針

ト対応や運用支援を行うと共に、それに必要な技術開発や情報集積・分析などを進めています。

モニタリング基盤／インテリジェンス領域では、いわゆるサイバー攻撃の検知などセキュリティを可視化する技術を主に研究しています。攻撃を検出するためのセキュリティログ分析技術や、行動追跡のためのトレーサビリティ技術の開発に加え、悪性サイト情報などのインテリジェンスを共有する仕組み作りも手掛けています。

新たに設定したのが、リジリエント・セキュリティというR&D領域です。リジリエントとは「弾力がある」という意味の言葉。先の東日本大震災を契機に注目されるようになったキーワードです。災害でダメージを受けた場合にも回復力を持つインフラを構築するといった場合に良く使われます。リジリエント・セキュリティ領域では、攻撃を受けても、セキュリティアプライアンスとネットワークやクラウドが連携して自動（あるいは半自動）的に回復するような技術の研究開発を進めています。

——R&Dにおいて意識していることは何でしょうか。

**梅本** セキュリティが取り扱う領域は広く、当研究所だけではすべてをカバーできません。そのため、R&Dにおいては連携を意識するようにしています。例えば、当社が北米で立ち上げたR&D拠点「NTT I3」とは密に連携して研究開発を進めています。セキュリティとクラウドに関して、北米はまさに最先端の環境であり、先進的な技術者との議論やユーザーの情報は有益

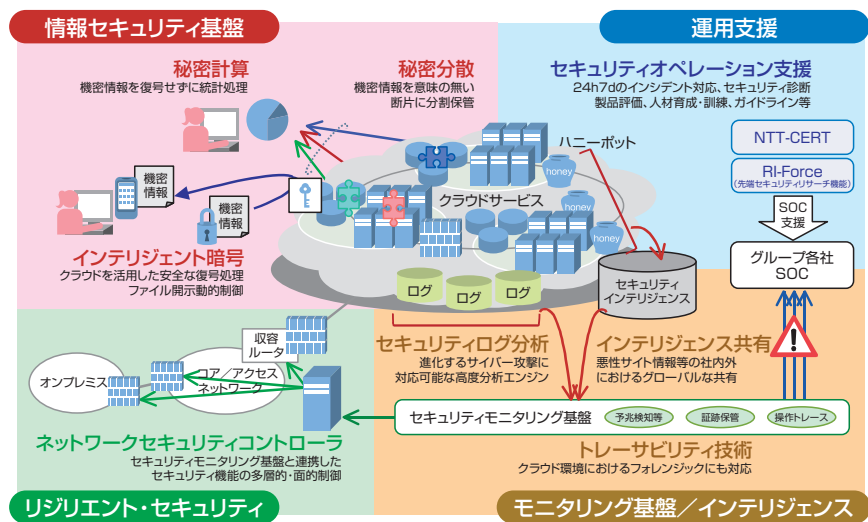


図2 セキュリティR&Dの各領域における主な取組み内容

です。NTTグループ外の企業との技術アライアンスについても、これまで以上に積極的に進めるつもりです。

情報連携も重要です。運用支援やインテリジェンス領域で特に意識しています。早期警戒情報や脆弱性情報などのセキュリティ情報を集約してNTTグループ内で共有する体制作りに取り組んでおり、それはすでに完成しつつあります。

情報連携の仕組みは国家レベルでも必要です。すでに米国では、国家主導でそのための仕組み作りが進められています。日本でも近い将来そうなるでしょう。その際に、NTTグループとして取り組むべきことを今から考えて始めています。

——外部への情報発信についてはどうお考えでしょうか。

**梅本** 非常に重要だと思っています。NTTがセキュリティの研究を手掛けているというのは、一般にはあまり知られていないかもしれません。しかし、暗号分野やマルウェア

対策分野では世界最先端の研究成果を出し続けています。そうした成果を一般のお客様にもわかりやすい形でアピールし、「セキュリティと言えばNTT」と認知されるようにしたいものです。

**柔軟な発想で新技術を開発し  
それを事業やサービスに活かす**

——最後に、今後の取組みについてお聞かせください。

**梅本** 研究所なので技術が命です。我々でなければ出来ないという技術は積極的に伸ばしつつ、新しい技術にもいち早く取り組んでいきます。そのために、柔軟な発想の下、継続的な弾込めを行っていきます。

その上で、技術を「安心・安全なネットワーク」を作るためのソリューションに結び付ける知見やノウハウについても育てていきたいと考えています。

——今日は有り難うございました。

(聞き手・構成：末安泰三)